



第17回常任理事会

日時 令和6年11月12日(火) 18:00~19:21
場所 北海道医師会館・9階理事会室
出席者 松家会長、佐古・鈴木両副会長、三戸・目黒・橋本・水谷・山科・伊藤・青木・荒木・長谷部・菅田・高橋・寺本・白崎・村上各常任理事、藤瀬・梶・阿久津各監事、長瀬顧問
 (事務局：三瓶事務局長ほか15名)

協議事項

第1号 北海道国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦に関する件(橋本常任理事)

保険医代表として、内科19名、外科5名、脳神経外科3名、整形外科4名、小児科2名、産婦人科2名、精神科2名、皮膚科1名、泌尿器科2名、計40名を推薦することと決定。

第2号 北海道難聴児支援推進協議会構成員の推薦に関する件(目黒常任理事)

三戸・寺本両常任理事を推薦することと決定。

第3号 日本医師会会内委員会委員の推薦に関する件(目黒常任理事)

日医より依頼のあった外国人医療対策委員会の委員に伊藤常任理事、健康食品安全対策委員会の委員に滝山理事が就任することを決定。

第4号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(高橋常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座8件を承認することと決定。

第5号 その他

(1) 12月行事予定に関する件(事務局)

報告事項

1. 地域医療を担う青少年育成事業 [10月10日(木)・長万部町、10月24日(木)・留辺蘂町、10月30日(水)・上富良野町] について(高橋常任理事)

本年度より実施主体を北海道とし、長万部町(10/10)、留辺蘂町(10/24)、上富良野町(10/30)の3地区で開催した。地元の中学生を対象に、講演、医療体験学習で実技指導を行ったほか、医師という

職業をより身近に感じ医療に興味を持ってもらうため、地元出身の若手医師から「医師になったきっかけ、やりがい」等を講演いただいた。

2. 医療経営講習会 [10月23日(水)・小樽市] について(寺本常任理事)

医療総研株式会社・伊藤哲雄代表取締役社長を講師に迎え「診療圏分析と医療経営戦略」をテーマに、小樽市医師会の協力のもと開催した。地域医療構想における病床機能報告や入院/外来医療等の今後の方向性、本年度の診療報酬改定のポイントについて講演があった。参加者は会員および事務担当者を含め、21名であった。

3. 第45回産業保健活動推進全国会議 [10月24日(木)・Web併用] について(鈴木副会長)

厚生労働省による中央情勢報告の後、全国3か所の産業保健総合支援センターから、産業保健総合支援事業に関する活動事例報告があった。また、「産業医の資質向上に向けた研修会の開催について」をテーマとしたシンポジウムならびに日医認定産業医制度におけるシステム化についての説明があった後、事前に寄せられた質問について意見交換が行われた。

4. 第48回北海道救急医学会学術集会 [10月26日(土)・旭川市] について(白崎常任理事)

旭川医科大学救急医学講座・岡田基教授が当番幹事となり、開催された。特別講演、教育講演、シンポジウム、一般講演が行われ、参加者は386名であった。次回は来年10月18日(土)に国立病院機構北海道医療センター救命救急部・碓光司部長が当番幹事となり、札幌市で開催予定。

5. 全国医師会勤務医部会連絡協議会 [10月26日(土)・福岡市] について(水谷常任理事)

福岡県医師会の担当により、「勤務医の声を医師会へ、そして国へ～医師会の組織力が医療を守る～」をメインテーマとして開催された。日医・松本会長ならびに福岡県医師会・蓮澤浩明会長の挨拶の後、松本会長、厚生労働省医政局医療安全推進・医務指導室・松本晴樹室長らから4題の特別講演および「組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現」をテーマとしたシンポジウム等が行われ、最後に「ふくおか宣言」を採択し、閉会した。参加者は438名であった。次回は来年11月8日(土)に岩手県盛岡市で開催予定。

6. 令和6年度勤務医交流会 [10月27日(日)・福岡市] について(寺本常任理事)

日医勤務医委員会・一宮仁委員長からのオリエンテーションの後、「勤務医の医師会活動への参画～勤務医が望む医師会活動とは?～」、「働き方改革は君たちにとってどうなの?～若手医師の本音～」の二つのテーマについて、3グループずつに分かれてグループディスカッションが行われた。各グループはファシリテーター1名、管理者・部長クラス1名、中堅医師1名、専攻医・研修医・医学生3名程度で構成され、幅広い年代の立場から活発な議論が交わされた。

7. 都道府県医師会組織強化担当役職員連絡協議会
[10月31日(木)・Web開催]について(目黒常任理事)

日医・松本会長の挨拶の後、「より具体的な入会促進に向けた取り組み」をテーマに、日医・角田副会長からのさらなる医師会組織強化に向けた説明のほか、埼玉・三重・岡山・福岡各県医師会よりそれぞれ活動報告があった。協議では会費減免期間終了後も継続して会員となってもらうための施策等について意見交換が行われた。

8. 第2回勤務医部会運営委員会・第3回若手医師専門委員会 [11月4日(月・休)・Web併用]について(水谷常任理事)

部会員ならびに運営委員の変更および医学生・若手医師キャリアデザインセミナーの開催について報告した後、和田卓郎部会長の進行により、地域医療現況調査(令和7年度)の調査票の内容や勤務医個人向けアンケート調査の実施、勤務医部会全体会議の議事等について協議した。

9. 医師の就労環境づくりを支援するための臨床研修指定病院訪問 [10月30日(水)・北見市、11月8日(金)・旭川市]について(長谷部常任理事)

医師キャリアサポート相談窓口等の医師の就労環境づくりに必要な支援の普及啓発や、医師会の組織強化を目的に開催し、当会と各病院の取組みを共有した後、意見交換を行った。北見赤十字病院における出席者は21名、旭川赤十字病院における出席者は17名であった。

10. 屋根互塾2024北海道 [11月9日(土)・函館市]について(高橋常任理事)

初期臨床研修医の育成、質的向上を図るとともに、道内の臨床研修医、指導医等のネットワークを構築し、医師の就業と定着を促進することを目的に開催した。道南地区の臨床研修病院研修医を対象とし、市立函館病院救命救急センター専攻医・永本郁宏先生、函館五稜郭病院専攻医・鈴江瞬太先生と小職がQ&Aセッションにより、受講者が回答する参加型の研修会を行った。受講者は、初期研修医10名であった。

11. 第55回全国学校保健・学校医大会 [11月9日(土)・宮崎市]について(荒木常任理事)

日医の主催、宮崎県医師会の担当で「未来ある子ども達のために、いま学校医ができること」をメインテーマに開催された。午前には5つの分科会、午後には開会式と表彰式があり、「学校医の魅力、やりがいとは何か～現状と課題を踏まえて～」をテーマとしたシンポジウムや「夢を夢で終わらせない競泳人生」と題した特別講演が行われた。参加者は544名であった。次回は、神奈川県医師会が担当となり、来年11月22日(土)に神奈川県横浜市で開催予定。

12. 外部各委員会報告

(1) 道北ドクターヘリ事後検証部会 [10月10日(木)・Web開催]について(青木常任理事)

昨年度の運航実績報告書について報告があつた。

た。出動件数は270件と昨年度比51件減少、未出動件数は159件と昨年度比12件増加し、天候不良が未出動の理由の大半を占めていた。他機関ヘリコプターからの要請は主に道東からが多く、また、他事案出動中や天候不良を理由に、道央や道東ドクターヘリに応援要請をしたとの説明があった。

(2) 北海道におけるがん診療連携拠点病院推薦審査委員会 [10月23日(水)]について

(長谷部常任理事)

がん診療連携拠点病院等の新規・指定更新申請状況および診療実績等について説明があり、更新申請3病院、新規申請2病院を推薦候補病院とし、既指定病院17病院と合わせ22か所の拠点病院等を整備する案を承認し、10月29日に開催する北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会で協議することとした。

(3) 第1回指導が不適切である教員の認定等に関する意見聴取会 [10月28日(月)]について

(荒木常任理事)

北海道教育委員会が主体となって実施している指導改善研修制度について説明後、対象教員の状況について報告があった。

(4) 第2回北海道子ども施策審議会子ども・子育て支援部会 [10月29日(火)・Web併用]について(寺本常任理事)

子ども基本法に基づき策定する次期北海道子ども計画(仮称)について、第1回部会での各委員からの意見を踏まえ作成した素案たたき台の説明があり、全体計画の他、個別計画の素案たたき台と合わせてその内容について審議した。また、北海道子ども基本条例(仮称)素案たたき台についての説明も行われた。

(5) 第2回北海道薬剤師確保対策検討会 [11月6日(水)・Web併用]について(佐古副会長)

薬剤師就業実態を把握し、薬剤師確保策の検討の基礎データとすることを目的として、道内の病院529施設、薬局2,287施設および薬剤師9,771名を対象に本年8月30日から1か月間にわたって実施した薬剤師確保のためのアンケート調査結果について報告した後、北海道薬剤師確保計画の素案について協議を行った。

13. その他

(1) 人事課の設置等について(目黒常任理事)

当会事務局の組織を含めた人事の在り方や規則・規定の必要な見直しを早急に行うことを目的に、人事・服務担当部署を設置するほか、ハラスメント相談窓口を再整備することについて説明した。

道総医協関連事項(鈴木副会長)

1. 第2回地域保健専門委員会 [10月29日(火)・Web開催]について(長谷部常任理事)

がん診療連携拠点病院等の申請状況および指定要件の充足状況、ならびに北海道におけるがん診療連携拠点病院推薦審査委員会における審査状況について説明があった後、がん診療連携拠点病院の指定推薦、推薦候補病院について協議し、厚生労働省に更新3病院、新規2病院の推薦書と既指定病院の現況報告書を提出することを了承した。

2. 第4回地域医療専門委員会 [10月31日(木)・Web併用] について (佐古副会長)

医療提供体制上の課題や重点的な支援の必要性があると考えられる区域でデータ分析等の技術的支援や地域医療介護総合確保基金の優先配分等の財政的支援を活用することができる「モデル推進区域」に中空知圏域が本年10月10日付で設定されたこと、北海道地域医療構想調整会議協議会の開催結果や、令和6年度地域医療介護総合確保基金(医療分)の内示について報告があった。その後、令和5年度北海道地域医療介護総合確保基金事業(医療分)の事後評価調書について協議した。

第18回常任理事会

日時 令和6年11月26日(火) 18:00~18:57
場所 北海道医師会館・9階理事会室
出席者 松家会長、藤原・佐古・鈴木各副会長、三戸・目黒・橋本・水谷・山科・伊藤・青木・荒木・菅田・高橋・寺本・白崎・村上各常任理事、藤瀬・梶・阿久津各監事、長瀬顧問

(事務局：三瓶事務局長ほか14名)

協議事項

第1号 母体保護法指定医師の指定に関する件

(目黒常任理事)

審査委員会において指定可とされた新規申請者1名を指定医師とすることと決定。

第2号 母体保護法指定医師研修機関の指定に関する件 (目黒常任理事)

おおこうち産科婦人科(札幌市)を指定することと決定。

第3号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件 (高橋常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座4件を承認することと決定。

第4号 その他

(1) 12月行事予定に関する件(事務局)

報告事項

1. 介護保険制度・障害者総合支援法にかかわる主治医研修会について (菅田常任理事)

北海道からの受託事業として実施している本研修会を釧路市で現地開催したほか、札幌市ではハイブリッド形式ならびにWebにて二回開催した。小職

をはじめ当会担当役員が介護保険制度における主治医意見書の記載例を解説し、北海道保健福祉部より同制度の概要と障害者総合支援法について説明した。札幌会場では北海道ヘルスケア・ロボット協会の協力のもと、ミニロボット展として介護用ロボット機器等の展示を行った。出席した医師には北海道から受講修了証が発行される。参加者は合計495名であった。

2. 第31回日本航空医療学会総会・学術集会 [11月15日(金)~16日(土)・沖縄県] について

(白崎常任理事)

社会医療法人仁愛会浦添総合病院救命救急センター・米盛輝武センター長が会長となり、『航空医療における「タテ」の連携「ヨコ」の連携』をテーマに開催された。シンポジウム、パネルディスカッション、一般演題等が行われ、参加者は953名であった。次回は来年11月14日(金)、15日(土)に順天堂大学医学部附属静岡病院救急診療科・柳川洋一教授が会長となり、静岡県で開催予定。

3. 第2回都道府県医師会長会議 [11月19日(火)・日医会館] について (松家会長)

「医師少数地域における医師確保について」をテーマに、当会が属さないBグループ(8医師会)が議論した後、同テーマに対する日医への質問の回答が行われた。各地域で様々な取り組みを行っているが、一つの手段で解決するような「魔法の杖」は存在しないため、様々な方法を組み合わせ、パッケージ化した総合的な対策が望まれる。なお、日医が主張する一千億円規模の「医師偏在対策基金」創設の実現に期待する意見も多かった。

4. 国民医療を守るための総決起大会 [11月22日(金)・日医会館] について (青木常任理事)

医療関係を中心に42団体で構成する国民医療推進協議会の主催で開催された。日医・松本会長および本大会協力団体の東京都医師会・尾崎治夫会長から挨拶があり、続いて来賓挨拶、出席者の紹介があった。日医・茂松副会長による趣旨説明と構成団体代表からの決意表明の後、賃上げや物価高騰などに対する適切な財源を確保することが必要であり、国民の総意として国に強く要望することを決議した。参加者は約1,000名であった。

5. 北海道三師会 [11月22日(金)] について

(目黒常任理事)

当会の当番で開催した。各団体の会長挨拶、出席者紹介の後、「組織強化」をテーマに各団体から話題提供があり、当会からは鈴木副会長が発表した。その後懇談を行い67名が参加した。

6. 学校保健推進委員会 [11月23日(土・休)] および第71回北海道学校保健・安全研究大会 [11月24日(日)・旭川市] について (三戸常任理事)

開催地の旭川市医師会・滝山義之会長から旭川市の学校医活動、当会・荒木常任理事から日医学校保

健委員会について報告した後、北海道教育庁より「学校保健の課題とその対応」について、日本学校保健会の弓倉整専務理事より「学校等欠席者・感染症情報システム」について話題提供があり、意見交換を行った。また、今年度もいじめ問題について関係者間で共通認識を持つことを目的とした勉強会も併せて開催し、和光大学現代人間学部心理教育学科・稲葉浩一准教授より「子どもの〈苦痛〉に社会はどのように向き合うべきかーいじめ概念の再検討」をテーマに講演いただいた。翌日の大会は「生涯を通じて、心豊かにたくましく 北の大地を生きる子どもの育成を目指して」をメインテーマに旭川市にて開催され、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教職員計97名に対する学校保健功労者表彰が行われた。こころとそだちのクリニックむすびめ・田中康雄先生より「生きにくさを抱える子どもたちと家族を支える～自傷、薬物、いじめなどを考える～」をテーマにした基調講演の後、「学校経営と組織活動」、「保健管理・保健教育、安全管理・安全教育」、「現代的健康課題」について研究協議を行った。参加者は約190名であった。

7. 北海道保険医会との懇談会 [11月25日 (月)] について (寺本常任理事)

今年度は北海道保険医会の担当で開催した。「医

師の偏在問題」をテーマに、北海道保険医会は伊藤正美理事から、当会は佐古副会長からそれぞれ話題提供を行い、意見交換を行った。

8. 外部各委員会報告

(1) 北海道認知症疾患医療連携協議会・担当者会議 [10月26日 (土)] について (藤原副会長)

認知症疾患医療センターの指定状況等のほか、認知症施策推進基本計画と都道府県認知症施策推進計画について報告があった後、意見交換および情報共有を行った。

(2) 第3回北海道感染症対策連携協議会 [11月14日 (木)] について (三戸常任理事)

北海道新型インフルエンザ等対策行動計画の策定について、道の基本的な考え方、検証報告を踏まえた追記や委員の意見を踏まえた追記について説明があった後、素案について協議を行った。

(3) 令和6年度北海道健康づくり支援薬局認定制度運営協議会 [11月20日 (水)] について

(藤原副会長)

現在の北海道健康づくり支援薬局の認定状況等を確認し、今般、新規・更新申請のあった薬局について審査し、認定した。



北海道 医師会
HOKKAIDO
Career Support
医師キャリアサポート相談窓口

ドクターの人生に寄り添い、
希望にかなう働き方を全力応援！

医師への復職、キャリア継続をめざす方へ



就業・復職

定年退職後も生涯現役でいたい方へ



セカンドキャリア

医師と子育ての両立を目指す方へ



育児

家族の介護に支援を求めらる方へ



介護

北海道医師会 医師キャリアサポート相談窓口 北海道中央区大通西6丁目 北海道医師会館

 **0120-112-500** 詳しくは専用ホームページをご覧ください
(受付時間 月～金 9:00～17:00) FAX. 011-231-7272 <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/> 